

て、臺盤所よりいださるれば、藏人とりて、殿上の臺盤のうへにおく、上達部、わがふせのふなづ、
 みを持って、御殿のなげしの上なる白木の机に置いて、次第に座につく、御料の御ふせは、かみをおか
 る、不參の人のふせ、藏人をく、御導師の僧まうのぼりて、佛前の作法おはりて、鉢の水を一にくみ
 あはせて、先御導師くわん佛す、公卿次第にす、みて、笏をさし、膝行して、ひさごとりて、水を汲
 て、灌佛して、後禮佛す、導師ふせ給て、まろく、此佛生會は、推古天皇よりはじまる、釋迦如來の俱
 毘藍城にてむまれ給ひける時、天龍下て、水をそ、ぎて、釋尊にあふせ奉し事を申なり、

〔三代實錄二十八〕貞觀十八年四月八日乙卯、停内裏灌佛、以行神事也。
清和

〔九曆〕天德三年四月八日、灌佛布施錢、依寬平例進古錢、是中將說也。

〔法成寺攝政記〕寬弘三年四月八日己卯、有御灌佛事、布施用紙、大臣五帖、納言四帖、宰相三帖、四位五
 位二帖、六位一帖、其儀如常。

〔中右記〕寬治八年嘉保元年四月八日戊寅、依例有御灌佛、暫移畫御座於南面、則撤御座、南面供御裝束
 如常、但大殿師實令參給束帶、依御簾中加敷圓座一枚、大殿令候、簾中給、未四點、藏人掃部助高階

遠實置御布施物紙二十帖云々、次出居左中將國信、右少將顯實、左少將俊忠、朝臣、右少將有賢、宗輔著座、次

藏人兵部大輔通輔、取大殿御布施置之件御布施紙十帖者、又無御名、御堂、次關白殿、自取布施出、自

殿上之上戸進置之、令著公卿座上給藏人勸解由次官、次藤大納言殿、中宮大夫但不獻布施、又不灌

神事、上卿也、唯被候、座許也、右大將、治部卿、右衛門督、左兵衛督、藤中將已上被、二位宰相中將、左大弁、右兵衛督、中

宮權大夫已上置布、頭弁、頭中將以下、殿上侍臣至藏人、參仕人々廿餘輩、各置布施如例、次藏人等置

不參入布施并女房布施物、第一御導師源快率、弟子僧四人、入自西中門進御前、先禮佛散花、灌五色

水、次關白以下諸卿皆以灌之、其中右大將九條殿子孫、用來路也、依觸外感歎略、頭中將以下出居

兩三人、侍臣一兩人灌之、至藏人高階遠實、用九條殿子孫路也、年少之咎、人々不為怪也、給掛一領事